

令和2年度に向けた我が校の教育ビジョン

作成年月日：令和元年12月13日

伊丹市立伊丹小学校

(学級数 40学級、児童数 1,102人)

1 本年度の取り組み状況(11月末現在)

- (1) 研究全体会：今年度の研究についての方向性と共通理解
校内研究会：1学期 3年生体育
2学期 4年生社会 6年生国語 2年生体育
3学期 1年生国語 5年生道徳 特別支援学級自立活動
自主研修会：各学期2回程度(英語、学級経営、授業づくりなど)
- (2) オープンスクールの実施 各学期1回 計3回
- (3) 学校運営協議会の開催(5回実施済み)
- (4) 図工展の実施予定(令和2年2月20日～22日)

2 めざす学校像 「よい子 強い子 伊丹の子」

- (1) 子どもたちが毎日楽しく登校できる学校
- (2) 保護者が明日も通わせたい学校
- (3) 地域が自慢できる学校
- (4) 教職員が仕事にやり甲斐と誇りの持てる学校

3 めざす子ども像 「自分の夢の実現を目指す子」

- (1) 心豊かな子 … 美しいものに感動し、思いやりの心を持てる子
- (2) 最後までやり抜く子 … 自分の夢を生き生きと語る子
- (3) 意欲的に学び合う子 … 互いに認め、励まし、高め合う子

4 めざす教師像 「熱意と指導力を持つ教師」

- (1) 子どもに寄り添い、共感しながら子どもの力を高める教師
- (2) 豊かな感性や情熱を持ち、自己研鑽に励む教師
- (3) 認め合い、高め合い、協働して取り組む教師集団

5 我が校の特色

- (1) 147年の歴史と伝統に育まれ、保護者や地域の教育力を生かした体験活動や学校支援活動に支えられた教育活動の推進。
- (2) 学校運営協議会を核として保護者・地域・各関係機関と連携した安心・安全な教育環境作りの実践と幼小中連携の推進
- (3) ユニバーサルデザインを取り入れた子どもに分かる授業の提供と教師の授業力の向上を目指した研究の推進

6 我が校の研究概要

研究テーマ 「子どもが主体的に学ぶ授業をめざして」～学びをつなぐ評価活動を通して～

講師 関西大学初等部 西 勝巳先生

- ・ 「評価」に焦点をあて、授業の中で設けられる評価活動が、教師による子どもたちへの一方的な評価に陥ることなく、子どもたちが、自分の見方や考え方の深まり、或いは技能の向上を実感し、学びの意識を次時へつなぐ評価のあり方を研究する。

実践内容

- ① 「考える」「深める」の各学習プロセスに「11の思考活動」を位置づける。
- ② 「つかむ」のプロセスにおける子どもたちとめあて(≒評価基準)を共有する方法を検討する。
- ③ 「ふりかえる」プロセスにおける、見方・考え方の深まりや技能の向上を実感する評価を検討する。

7 学力向上に向けた取り組み

- (1) 授業スタイル「伊丹小スタンダード」の徹底
「つかむ」 → 「考える」 → 「深める」 → 「ふりかえる」
- (2) ICT機器を積極的に活用したユニバーサルデザインを意識した授業づくり
- (3) ノート指導の充実
- (4) 生活習慣・家庭学習習慣の定着（やるゾウカード、自学ノートの活用）
- (5) 学力を保障する時間の設定と指導内容の工夫・改善
（朝学習、土曜学習、放課後学習、九九検定等）

8 教職員の勤務時間の適正化に向けた取り組み

- (1) 安全衛生委員会による健全な職場環境整備の推進
- (2) 週1回の定時退勤日、週1回のノー会議デーの完全実施
（月3回の月曜19:00、月1回のプレミアムフライデー18:00 完全定時退勤実施）
- (3) 共有フォルダーの整備、校務支援ソフトの活用、ペーパーレス会議等による時間削減
- (4) 教職員ルールブック・学校ナビの活用及び改訂、充実
- (5) 記録簿を活用した働き方の意識改革

9 今後に向けて

- (1) 教職員一人ひとりが真摯に子どもに向き合い、授業研究を中心に自己の資質、授業力・指導力の向上を目指せる同僚生の高い教職員集団を形成する。
- (2) 人権意識の向上と自尊感情の育成、個々の課題に寄り添った組織的な指導支援を行う。
- (3) 学校運営協議会を充実、発展させ、学校・家庭・地域との連携を強化し、その教育力を活かして「自分の夢の実現を目指す子ども」の育成及び「誇りに思える学校づくり」を推進する。

伊丹市立伊丹小学校 校長 森田 邦彦

我が校のHPのアドレスは・・・ <http://www.s-itami.itami.ed.jp/>